大気

ひたすら静かに沈黙していた大気は
荒ぶる神として目覚めようとしている

私は本当にその足下に居るのだろうか

もはや都市というものは必要無い、と思われたその時に
老いた者たちの恐怖が膨れ上がってきた
荒ぶる神が目覚めようとしている、と

郊外のあちこちにうち棄てられたＲＣの建造物があり
国家の散財を民衆に示している
一方では橋の下、川のたもとに
ホームレスの立てたダンボールの建物がある

叫びを封じる大気

多様に見える世界は
実のところ有機的な繋がりを失った
ガラクタが積み上がっているだけの処分場なのだ

永続するものは硬直的として退けられ
破棄されることを前提に次々と創造され
廃墟だけを残してゆく

封じられた叫びを
あの大気は吸い込みつづけている
―――そして準備している

(2007.1.21)